

# 石川県における肥前陶磁器の流通

加藤 克郎（財団法人石川県埋蔵文化財センター）

## 肥前陶磁器の様相と変遷

石川県内における肥前陶磁器の流入時期について、良好な資料群に恵まれている金沢城跡及びその周辺遺跡の資料から検討した。天正年間（1573～1591）段階の石川門前土橋白鳥堀調査区では、豊富な陶磁器類が出土しているが、肥前陶器は確認できない。慶長年間（1596～1614）段階では、良好な資料群には恵まれていないが、元和6年（1620）火災で廃絶したと推定される本丸附段のゴミ廃棄土坑（2004-1地点SK15）や、寛永8年（1631）大火後埋められた祭祀関連土坑（2004-1地点SK11）から肥前陶器が出土していることから、金沢への肥前陶器の流入は、慶長年間後期頃から元和年間にかけての時期であると想定される。

下限が元和8年〔1622〕頃と推定される、兼六園遺跡（江戸町跡推定地）第3遺構面では、陶磁器の主体は既に肥前陶器（30%）が占めており、胎土目と絵唐津を中心（砂目1点）とするが、肥前磁器は確認できない。このことは、寛永8年（1631）大火層と推定される、東ノ丸附段2002-7地点VI層や車橋門石垣2・3間焼土等においても同様である。

上限時期が寛永9年〔1632〕頃と推定される石川門前土橋盛土3で、初めて肥前磁器筒碗の出土が確認され、金沢における初期伊万里染付流入初期の事例として注目される。

17世紀後半には肥前磁器が本格的に確認できる。金沢城下の町屋跡である安江町遺跡（第2次）のゴミ廃棄土坑SK206、SK227の事例では、陶磁器組成の41%を肥前陶器が占めるが、肥前磁器の定量出土が認められ、磁器と陶器の比率が1:1（SK227）～1:2（SK206）であり、量比差に縮小傾向が認められる。18世紀になると、肥前磁器が組成の主体を占める遺跡が確認でき、武家地と推定される安江町遺跡（第1次）のゴミ廃棄土坑SK245の陶磁器組成は、肥前陶器が32%、肥前磁器が43%であり、量比差が逆転する。また陶器では、肥前陶器の減少に伴い京信楽系の増加が確認できる。

また、農村部の様相では、都市部と比較して、大皿類、色絵、京焼系陶器類が殆どなく、絵唐津、土師器皿の出土が極めて少ないことが特徴である（谷内ブンガヤチ遺跡：17世紀～18世紀前半など）。

なお17世紀後半には、大聖寺藩領の九谷古窯跡において磁器が生産されたが、八間道遺跡（大聖寺藩家老屋敷跡）においても、肥前製品出土量が陶器・磁器ともに最も多く、九谷古窯製品はわずかに1%を占めるだけで、色絵は出土していない。

## 文献・海岸採集資料から見た肥前陶磁器の流通ルート

織豊期における北陸・九州間の海運は、文禄・慶長の役による兵站物資輸送を契機として、盛んになったと推定される。また寛永16年（1639）に始まる、下関経由で大坂へ加賀藩米を廻送する「大坂登米」は、後の「西廻り航路」に当たる流通経路であるが、管見では、陶磁器類の流通を示す17世紀前半以前の文献は見当たらない。17世紀後半以降になると、城下町金沢の外港である宮腰に「唐津焼物舟」が着岸していること（貞享3年〔1686〕）や、「瀬戸物類」の馬借による陸送を示す文献（寛延2年〔1749〕）が確認できる。また本吉、安宅、黒島では、江戸時代後期から末期の「唐津物」入港を示す文献が確認でき、北前船による肥前陶磁器流通の一端が判明する。

また日本海域水中考古学会・金沢大学考古学研究室による能登半島での海岸踏査では、17～19世紀代の肥前陶磁が多く採集されている。これらは、難船時の「打荷（海中に投棄された積み荷）」や、沈没船資料も含まれると推定され、日本海の海運による肥前陶磁の流通を裏付ける重要な資料である。



第1図 主な近世遺跡・港津の位置

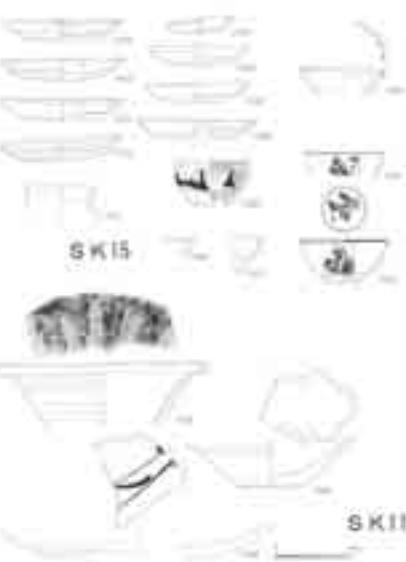


第2図 金沢城跡周辺の発掘調査位置図  
（金沢城跡調査報告書・三善龍丸南西石垣 - 本文版）(2010)

第2図 金沢城跡周辺の発掘調査位置図

番号	遺跡名	市町
1	飯田町遺跡	珠洲市
2	時圓古窯敷遺跡	輪島市
3	西川島道路跡	穴水町
4	大津ロクベエ遺跡	七尾市
5	谷内ブンガヤチ遺跡	中能登町
6	木津窯跡	かほく市
7	河原市経塚	
8	木越光琳寺遺跡	
9	春日山窯跡	
10	金沢城跡 金沢城下町の遺跡※	金沢市
11	野田山墓地	
12	金石本町遺跡	
13	打木町東遺跡	
14	御経塚遺跡デト地区	野々市町
15	粟田遺跡	
16	三納アラミヤ遺跡	
17	八田中中村遺跡	
18	松任城跡	
19	乾道跡	
20	東町遺跡	
21	桑島館跡	
22	小松城跡	
23	大川遺跡	
24	幸町遺跡	
25	若杉窯跡	
26	八幡遺跡	
27	蓮代寺遺跡	
28	松山窯跡	
29	山代再興九谷窯跡	
30	敷地天神山遺跡	
31	大聖寺城跡	
32	八間道遺跡	
33	耳聞山遺跡	
34	九谷磁器窯跡	
35	九谷A遺跡	

※広坂遺跡、安江町遺跡、下本多町遺跡ほか



第3図 金沢城跡本丸附段出土遺物



第4図 江戸町推定地  
第3遺構面 出土遺物



第5図 金沢城跡石川門前土橋  
盛土3 出土遺物



第6図 安江町遺跡（第2次）出土遺物



第7図 安江町遺跡（第1次）出土遺物



第8図 八間道遺跡出土遺物